

様式 4

## 平成 24 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 25 年 1 月 9 日

学 長 殿

所属部局・職名 数理・情報学系 学系長

神長 裕明

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学 術 出 版 ・ 叢 書 ・ 学 会 等 ) 学術振興に関する事業 (学 生 ・ 事 務 職 員 ・ そ の 他 の 特 別 事 業 )
事業名	「拡がりゆく数学 in 福島」
事業実施期間	平成 25 年 1 月 5 日
成果の概要	<p>独立行政法人科学技術振興機構 (JST) と福島大学数理情報学系、人間発達文化学類、共生システム理工学類との共同主催で、高校生および一般を対象とする講演会「拡がりゆく数学 in 福島」を 1 月 5 日にコラッセふくしま多目的ホールで開催した。</p> <p>参加者は約 130 名 (高校生約 90 名、一般約 40 名)。福島民友、福島民報に開催の記事が掲載された (別紙)</p> <p style="text-align: center;">プログラム</p> <p>13:00~13:10 開会、挨拶 13:10~13:50 「情報通信を支える 1 つの数学—符号理論、始めの一步」 原田 昌晃 (山形大学准教授)</p> <p>14:00~14:40 「リズムとパターンの数理」 北畑 裕之 (千葉大学准教授)</p> <p>14:40~15:00※休憩中のデモ 「シンクロ実験」 郡 宏 (お茶の水女子大学准教授)</p> <p>15:00~15:30 「拡がりゆく数 ~ 複素数という蕾 (つぼみ)」 濱野 佐知子 (福島大学准教授)</p> <p>15:40~16:20 「サイン・コサインとレーザー走査型プロジェクター」 池田 勉 (龍谷大学副学長)</p> <p>16:25~16:55 講演者との懇談会 17:00 閉会</p>

# 数学の「意外な魅力」発見

## 福島大と独立行政法人科学技術振興機構 (JST) による講座



数学の役割などを学ぶ受講生

「拡がりゆく数学 in 福島」は五日、福島市のコラッセふくしまで開かれた。

高校生向けで、福島大人間発達文化学類の浜野佐知子准教授らが情報通信などで数学が果たしている役割を紹介。数列や符号理論、

微分方程式が電化製品などに応用されていることなどを分かりやすく解説した。

受講した高校生ら約百三十人は、学校の授業とは視点が異なる講座に聞き入り、数学の魅力を再発見していた。

年間 F C  
ビデオ  
地区の  
年間視  
に発表  
テレビ  
翌日

福島民報1月6日朝刊5面

る「年間  
たのは  
九年ぶ  
ース・情  
れCh  
聴者の

### 経済短信

▼大河ドラマ放映記念  
弁当「八重のふるさと」

発売 郡  
6日から  
。新島  
ドをモキ

の味  
チーズ、オリーブオイ  
ル、バルサミコ酢など  
の食材が並んでいる。

記

で槌

て住担る

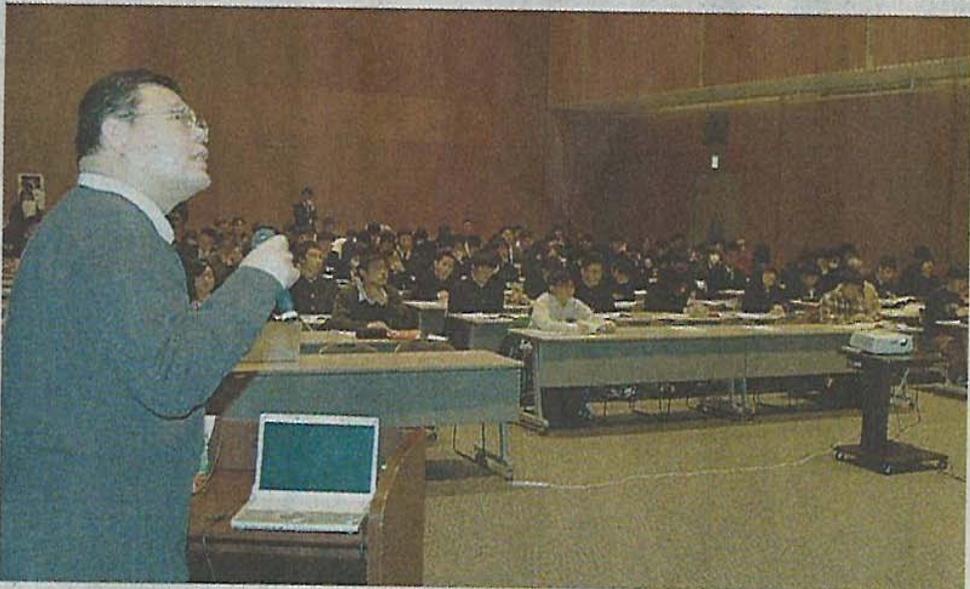
は火の区



▽：「数学  
はどんな形で  
社会で役立つ  
か」をテーマ

にした講演会「拡がりゆく  
数学 in 福島」は5日、福  
島市のコラッセふくしまで  
開かれた。写真。

▽：独立行政法人科学技  
術振興機構の「数学と諸分  
野の協働によるブレークス  
ルーの探索」研究領域の活  
動の一環で、福島大との共  
催。生命、環境、情報通信、  
金融などの各分野の研究者  
と協働し、社会的ニーズの  
高い課題解決を目指す研究  
者らがそれぞれの研究を総  
括した。



▽：中学生から一般まで  
約120人が来場。情報通  
信を支える一つの数学「符  
号理論」などに理解を深め  
ながら、数学の重要性や面  
白さを感じ取っていた。

トリス管ノ3 連夜は0日一喪主は夫明(あきと)氏。